

●登録者数および利用者数

- ・社会実験への登録者数は全体で 1,000 人以上となった。
- ・下田地区デマンド交通において、のべ利用者数が 1,000 人を突破した。
- ・循環バス見直しにおいて、のべ利用者数が 1,000 人を突破した。
- ・登録者数に対する利用実績の割合を見ると、循環バス見直しが 43%と他の社会実験に比べて高い比率となっている。

社会実験項目	①登録者数 (11月30日現在)	②利用実績が ある登録者数	③のべ利用者数 (10月14日～11月30日)
下田地区デマンド交通	1,036 人	207 人 (20%)	1,053 人
井栗地区コミュニティバス	244 人	20 人 (8%)	106 人
循環バス見直し(デマンド化)	358 人	154 人 (43%)	1,001 人

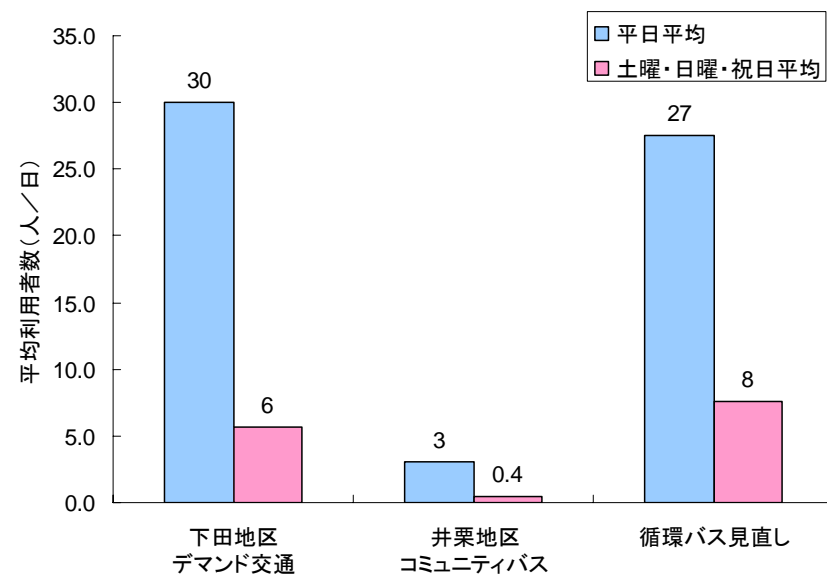
※②の () は①に対する割合



下田デマンド交通の利用状況風景
(三条総合病院玄関前)

●日平均利用者数

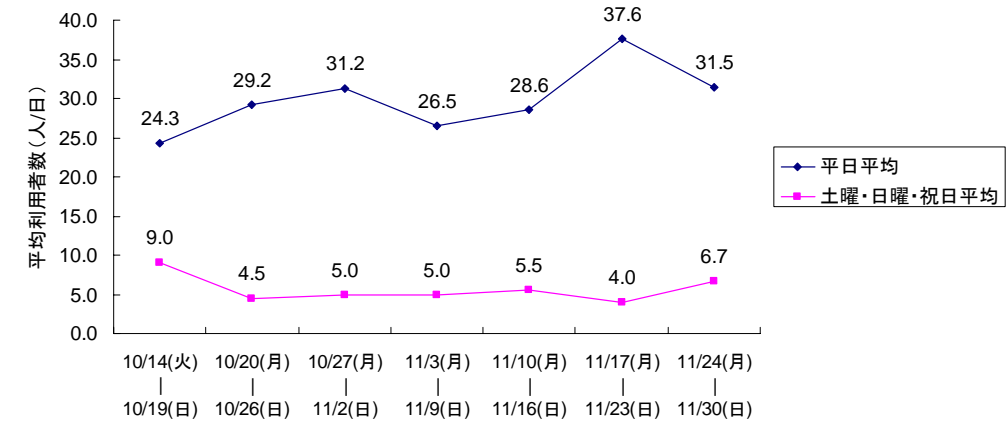
- ・下田地区デマンド交通と循環バス見直しは、平日において日平均で約 30 人程度が利用。
- ・全体として、平日に比べ土曜・日曜・祝日の利用が少ない。



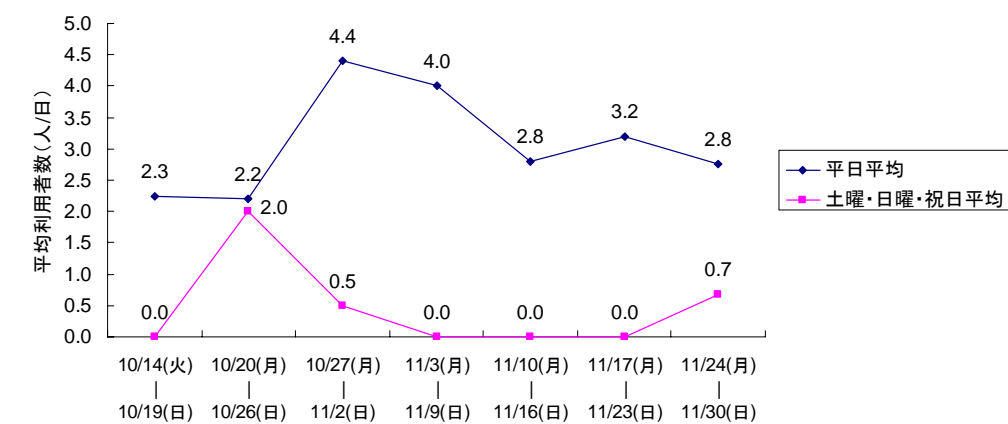
●週別平均利用者数

- ・平日については、全ての社会実験において利用者が増加傾向にある。
- ・土曜、日曜、祝日については、平日と比較すると利用者数は少ない。
推移としては循環バス見直しにおいて利用者が増加傾向が見られる。

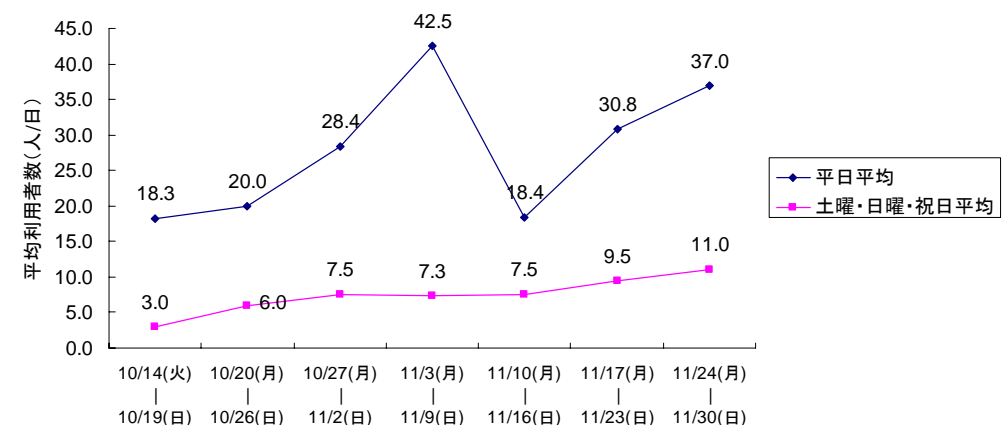
●下田地区デマンド交通



●井栗地区コミュニティバス



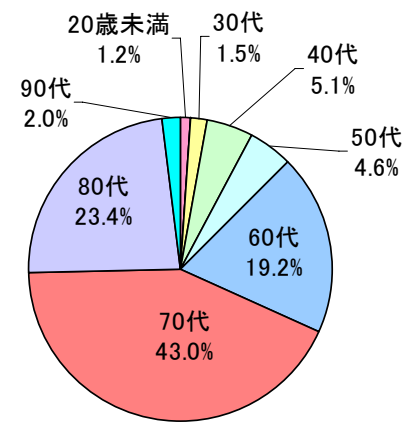
●循環バス見直し



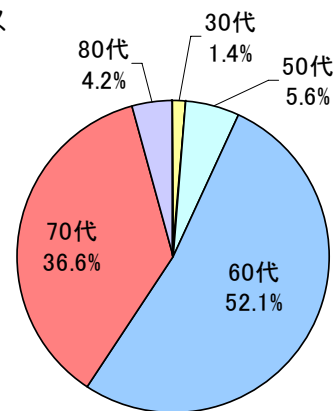
●利用者の年齢層

・下田地区デマンド交通、井栗地区コミュニティバスの利用者数のうち、60歳以上の方が約9割を占めている。
 ・循環バス見直しでは、幅広い年齢層の方が利用している。

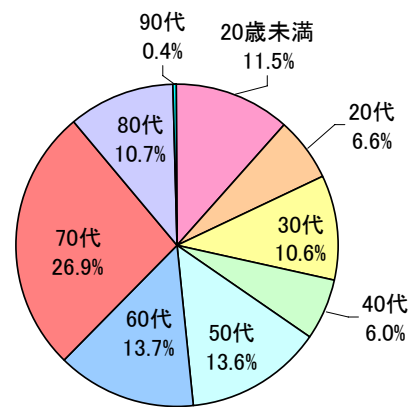
●下田地区デマンド交通



●井栗地区コミュニティバス



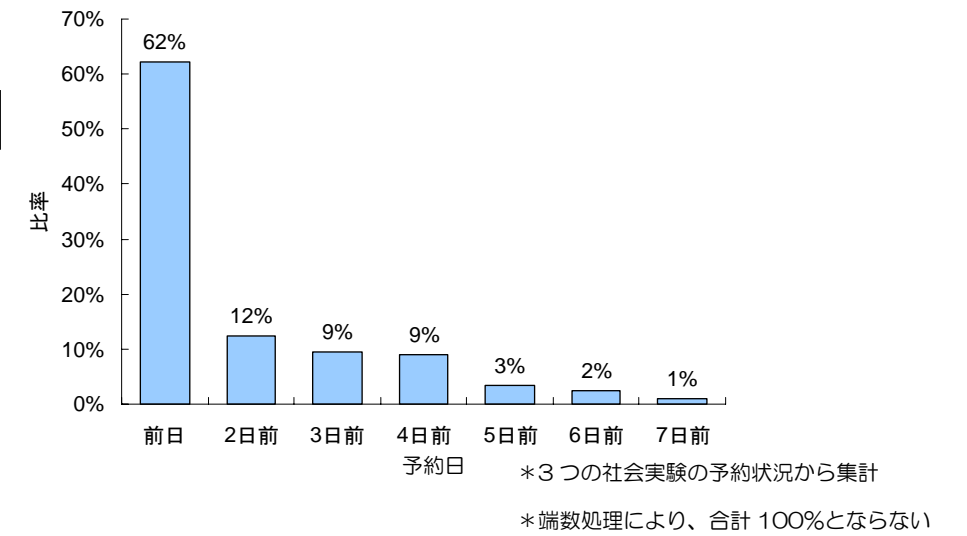
●循環バス見直し



※不明分は除く

●予約申し込みのタイミング

・全体の約6割が前日に予約。



●目的地別利用状況

・下田地区および井栗地区では、三条総合病院への利用が多い。
 ・循環バス見直しでは、東三条駅への利用が多い。

●下田地区デマンド交通（設定目的地12箇所）

順位	目的地	利用数
1位	いい湯らてい	107
2位	三条総合病院	94
3位	渡辺医院	88
4位	東三条駅	68
5位	富永草野病院	43

●井栗地区コミュニティバス（設定目的地5箇所）

順位	目的地	利用数
1位	三条総合病院	18
2位	東三条駅	9
3位	三条市役所	7

●循環バス見直し（バス停86箇所）

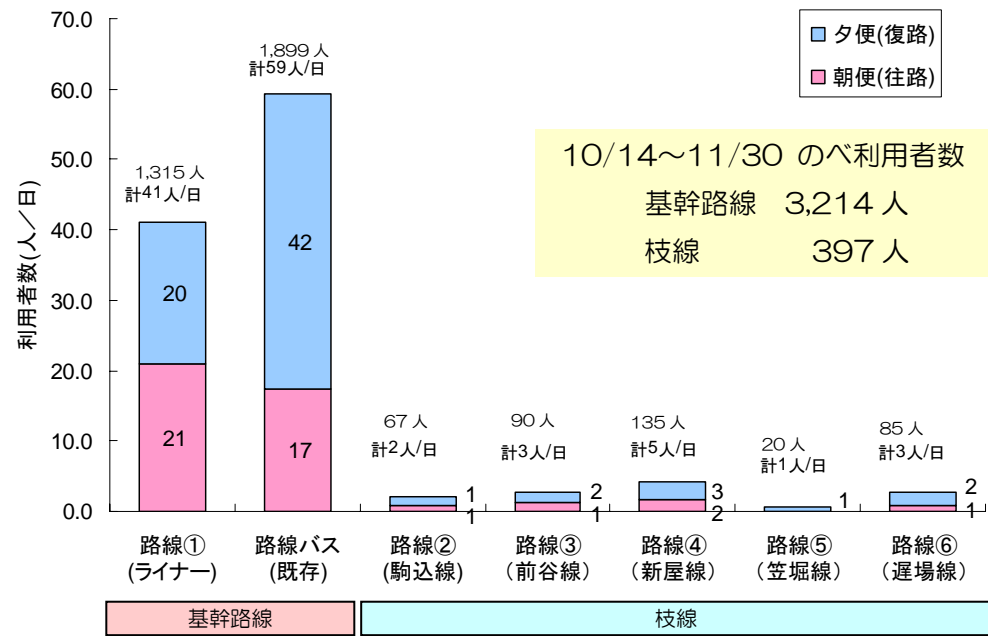
順位	目的地	利用数
1位	東三条駅	123
2位	三条市役所	87
3位	本成寺黒門	38
4位	総合福祉センター	36
5位	新保公園	35

●井栗地区コミュニティバスでの小学生通学利用状況

・日平均利用者数 登校時18人/日・下校時12人/日

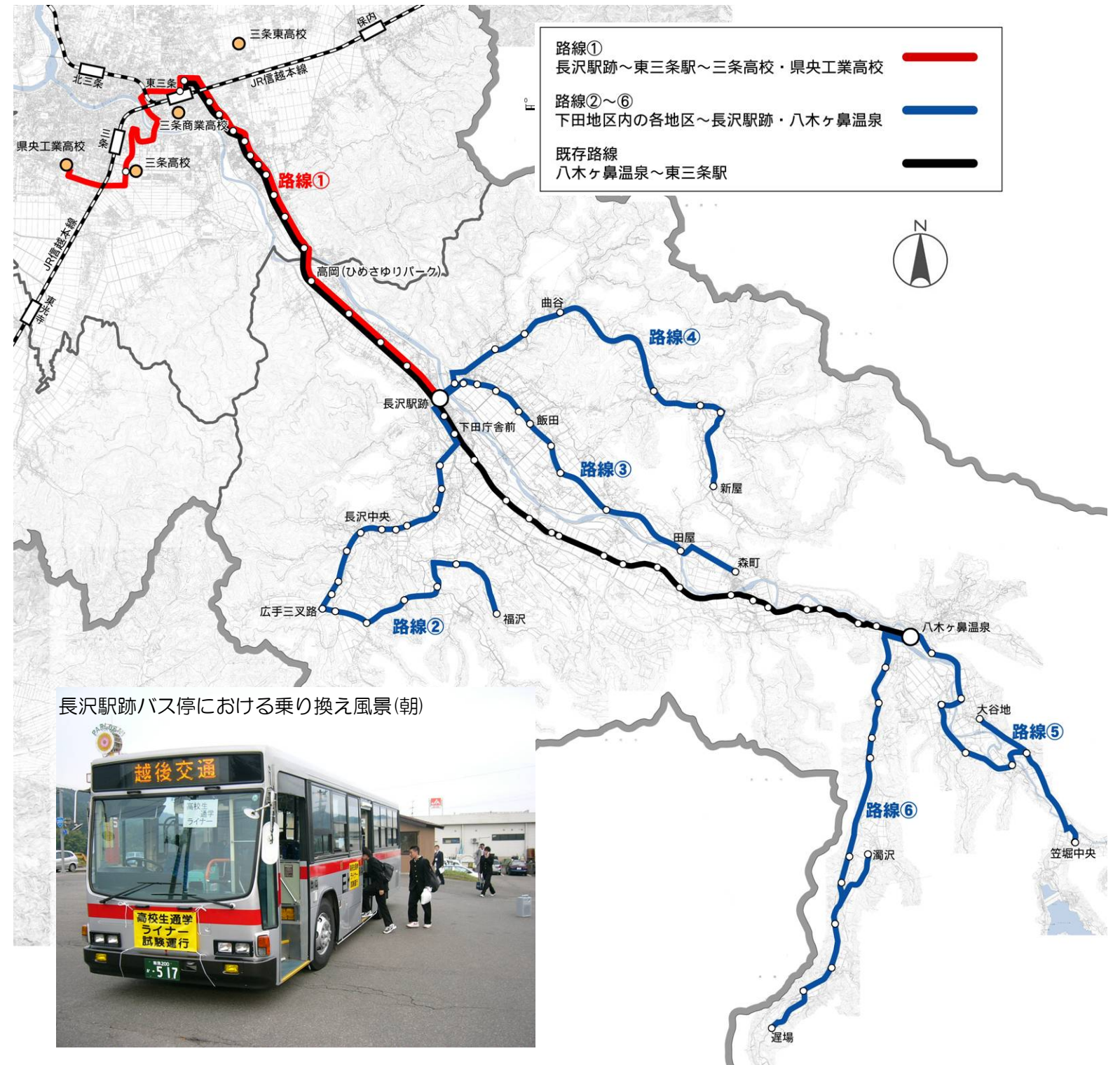
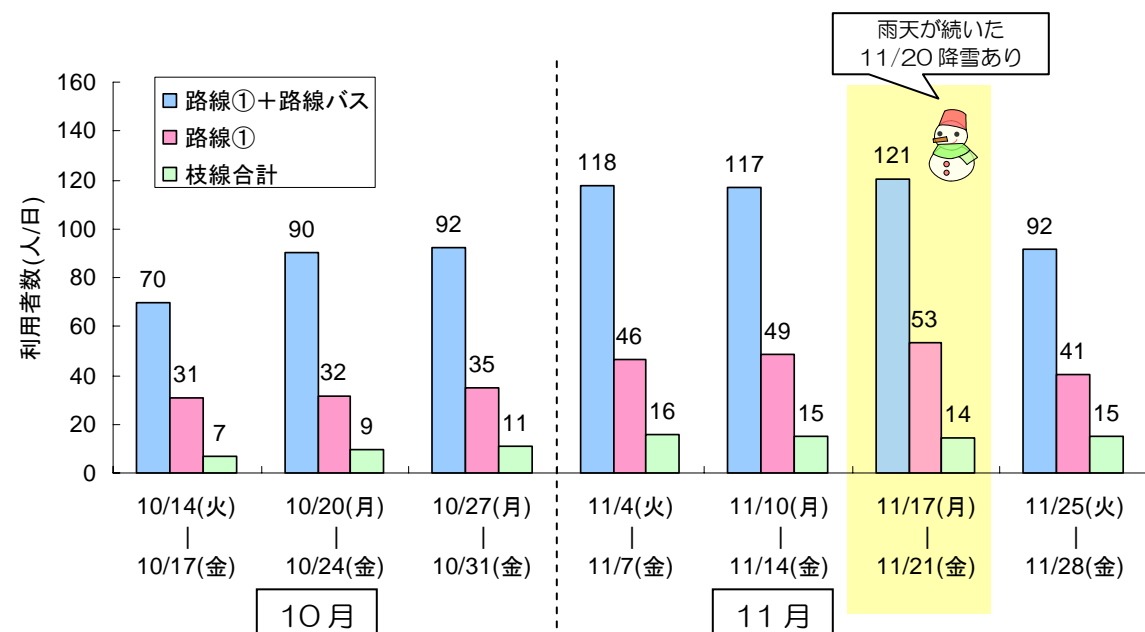
●日平均利用者数（10/14～11/30，高校生利用のみ）

- ・基幹路線において約3,200人の利用があり、社会実験で運行した枝線では約400人の利用があった。
 - ・路線①において平均41人/日の利用があり、路線バス(既存)と合わせると約100人/日が基幹路線を利用した。
- (参考値) 下田地区における社会実験前学生割引定期券の購入者 40～50人



●週別利用者数の推移（高校生利用のみ）

- ・利用者は増加傾向にあり、降雨や降雪が連日続いた11/17～11/21に日平均利用者数が最大となった。



●早朝ライナー利用者

- ・利用者は1名（三条東高校）であり、のべ19回の利用があった。